



老いの中の恵み

近所の親しい婦人　しかし、若いときに
が、妻の喜寿の祝いに　は気付かなかった「小
花を届けて下さった。　さなこと、些細なこと」
花好きの妻は大喜び。　の中にも恵みがあると
意思はあっても他人の　思い始めた。
祝い事は忘れがちにな　広くもない我が家の
るものである。

妻77歳、自分は79　庭の自然の植物、花な
歳。この間結婚生活は　ども聖なるものを感じ
る。

54年になり、「老夫婦」　今迄は当たり前と
と言われても仕方がな　思っていた玄関入り口
い年齢だ。　に咲くチロリアンラン

とところで老夫婦、「老　ブ、注意深く見ると、
いる」ことを今まで否　人の業では出来るもの
定的に捉えていたが、　ではない。南アメリカ
最近になって肯定的に　原産のアブチロンの一
捉えるようになった。　種だそうだが、どこで
確かに若い時に比べ、　どう変化したのかは知
体力は衰え、社会のい　らないが、他のアブチ
ろいろな出来事と疎遠　ロンとはランブ状のと
になる。　ころが似ても似つかない



チロリアンラン

い。昨年親しくしている
お寺の住職から貰った
オレンジ色の花をつけ
るアブチロンに似たも
のが多い。とはいえ、
花の色もピンク、黄色
などがあり、葉も斑
(ふ)入りのものもあ
り、一口にアブチロン

といっても100種類
以上あるという。

数々の花も咲く場所
によつて変化する。「場
所が変わつて変化す
る」と言えば、我々の
生活も机の位置を変え
て大きく変化した。

私の机は3人の子ど
もが成長し、家を出た
あとは2階の1部屋を
私が書斎として使用し
てきた。

妻の方は、12畳の食
堂兼居間の1部に机を
置いて使用してきた。

この度、2階の書斎
から私の机を妻の机と
並べて置くように変え
た。きっかけは別々に
ストープを使用したり



アブチロン

無駄が多いからだ。

なこと」の中に喜びを

しかし、この机の位　実感できること、私た
置の変更が2人の関係　ちの大きな老いの中
を大きく変えた。違　の大きな発見だ。「聖
目的で机についても、　なるもの」と言えば、
漢字の書き方に始ま　大きく憧れのようなも
り、いろいろなことを　のと連想しがちだが、
話し合うようになって　この小さなものの中に
た。机を並べての2人　も「聖なる、神の息吹」
の話の内容は何か新し　のような存在に出会っ
いものを感じさせる。　ているように思えるの
そこ到老いの中にあ　だ。

る新しい恵みのような　そして、老いに限つ
ものがあり、それが今　たことではないが、大
迄にない行動に発展さ　切なのは「今」をどう
せてくれる。そんなこ　生きるか、過去でも未
とが「老いの恵み」か　来でもなく「今」。自
と笑われるかもしれな　分にはその「今」が老
いが、「小さな、些細　いの時なのだ。



2人の机を並べる